

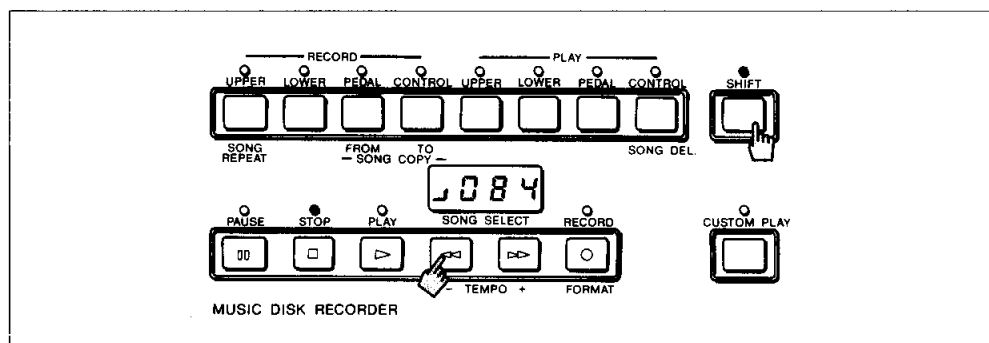
■再生のテンポ

機能説明

録音した曲のテンポを50～200%の範囲で自由に変更することができます。

操作方法

- テンポを速くしたい場合は、〔SHIFT〕(シフト) ボタンを押しながら〔TEMPO+〕(テンポ+) ボタンを押します。
- テンポを遅くしたい場合は、〔SHIFT〕(シフト) ボタンを押しながら〔TEMPO-〕(テンポ-) ボタンを押します。



- 〔SHIFT〕(シフト)ボタンを押しながら〔TEMPO〕(テンポ+)ボタンまたは〔TEMPO-〕(テンポ-) ボタンを押している間、デジタルディスプレイに数字が表示されます。この数字は、録音したときのテンポを“100”とした場合の再生時のテンポをパーセンテージで表しています。
- この数字は、ボタンから手を離すと1秒程度で消えます。
- テンポの変更をしたときに、デジタルディスプレイの左側に表示される記号の意味は次のとおりです。
 - ↑ 102: 録音時より早い
 - 1 100: 録音時と同じテンポ
 - ↓ 098: 録音時より遅い

これで、再生する演奏のテンポが変えられました。

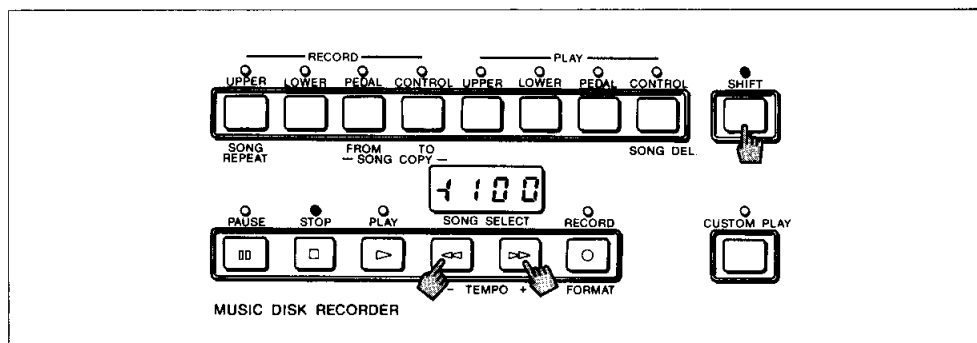
■録音時のテンポに戻す

機能説明

テンポを変更した後で、録音したときのテンポに戻すことができます。

操作方法

- 〔SHIFT〕(シフト)ボタンを押しながら、〔TEMP+〕(テンポ+)ボタンと〔TEMP-〕(テンポ-)ボタンを同時に押します。



- デジタルディスプレイに「100」が表示され、録音したときのテンポに戻ったことを示します。

これで、録音したときの元のテンポに戻りました。

注意

- 一度テンポを変更すると、別のソングナンバーを選んでも変更したテンポがそのまま残ります。テンポを変更した後は必ず上記の操作をしてテンポを元に戻してください。また、電源を切った場合もテンポは元に戻ります。

曲をコピーする

おまけに曲

機能説明

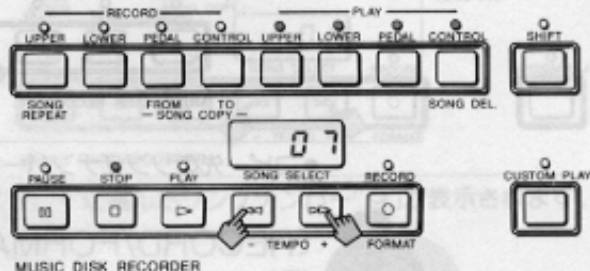
ソングナンバーに記録したデータを、別のソングナンバーにコピーすることができます。

操作方法

ソングナンバー「7」をソングナンバー「9」にコピーする操作を例にして説明します。

1

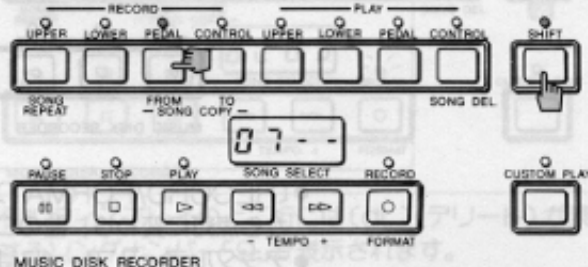
〔SONG SELECT〕(ソングセレクト)ボタンを押して、コピー元のソングナンバー「7」を選びます。



- デジタルディスプレイに「07」が表示されます。

2

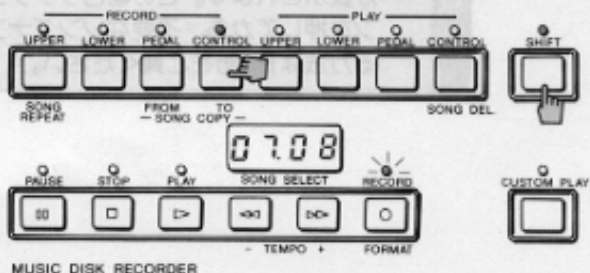
〔SHIFT〕(ボタン)を押しながら、〔PEDAL/SONG COPY FROM〕(ペダル/ソングコピーフロム)ボタンを押します。



- デジタルディスプレイの上二桁にコピー元のソングナンバー「07」が表示されます。右二桁には、(--)が表示され、コピー先がまだ指定されていないことを示します。
- このとき〔SHIFT〕(シフト)、〔PEDAL/SONG COPY FROM〕(ペダル/ソングコピーフロム)ボタンから指を離すと、ソングナンバーの変更ができます。

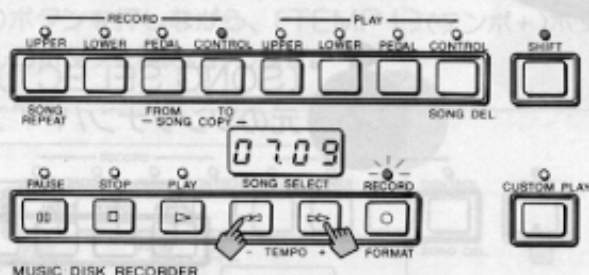
3

〔SHIFT〕(シフト)ボタンを押しながら、〔CONTROL/SONG COPY TO〕(コントロール/ソングコピートゥー)ボタンを押します。



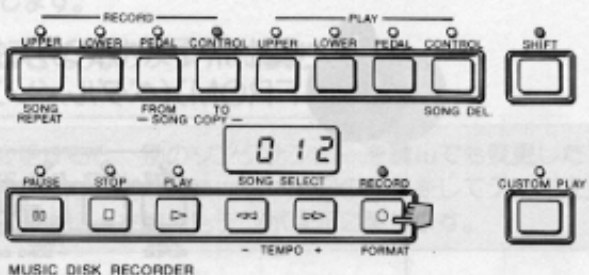
- コピー先として、データが記録されていないソングナンバーが自動的に選ばれ、下二桁に表示されます。
- (RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンの赤ランプが点滅します。

(SONG SELECT)(ソングセレクト)ボタンを押して、コピー先のソングナンバー「9」を選びます。



- コピー先のソングナンバーを表す「08」が「09」に変わります。

(RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンを押します。



- (RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンの赤ランプが点滅から点灯に変わり、曲のコピーが開始されます。
- デジタルディスプレイにはコピー元の容量が表示されコピーの進行に従って、減少していきます。
- 曲のコピーが終了すると、表示される数字が(07)になり、自動的にストップします。

これで、録音したデータが別のソングナンバーにコピーされました。

注意

- コピー元として選んだソングナンバーにデータが記録されていない場合は、データが記録されているソングナンバーが自動的に探し出され、表示されます。
- コピー先のソングナンバーすべてにデータが記録されている場合や、フロッピーディスクのメモリー残量が不足している場合は、デジタルディスプレイに(FULL)が表示されます。この場合ソングコピーはできません。(STOP)(ストップ)ボタンを押してから、不要なソングナンバーのデータを削除してください。(曲を削除する方法はP185をご覧ください。)



曲を削除する

るを制曲家曲

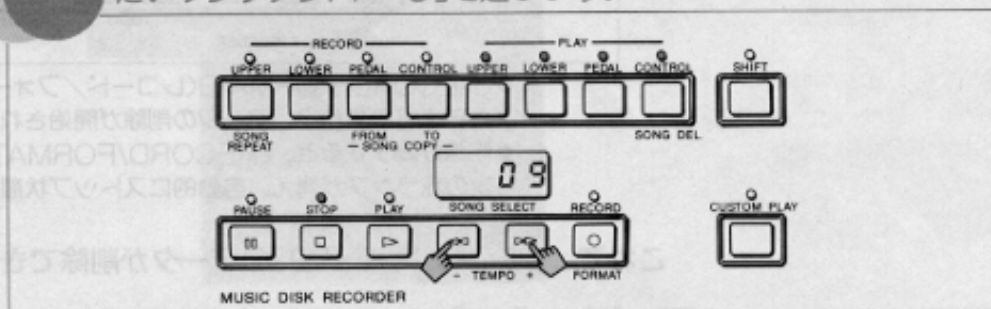
機能説明

フロッピーディスクに記録している曲が不要になった場合、曲を削除することができます。

操作方法

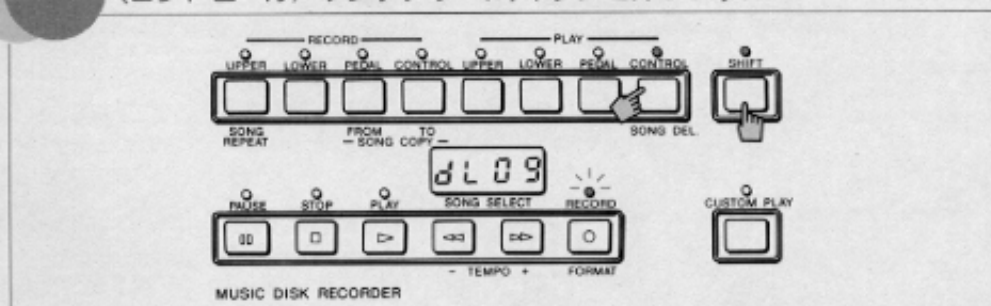
ソングナンバー「9」を削除する操作を例にして説明します。

1 (SONG SELECT)(ソングセレクト)ボタンを押して、削除したいソングナンバー「9」を選びます。



- ディスプレイに選んだソングナンバー「9」が表示されます。

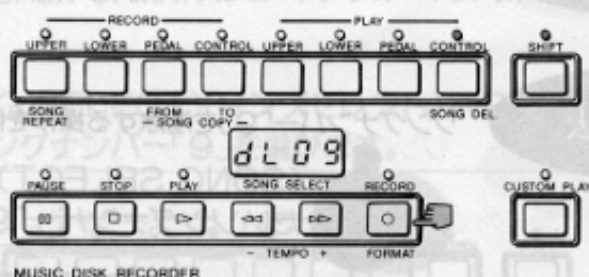
2 (SHIFT)(シフト)ボタンを押しながら、(CONTROL/SONG DEL.)(コントロール/ソングデリート)ボタンを押します。



- デジタルディスプレイの上二桁には(dL)(デリート)が表示され、下二桁には削除するソングナンバー「9」が表示されます。
- (RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンのランプが赤く点滅します。
- 削除を中止したい場合は、(RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンのランプが点滅しているうちに(STOP)(ストップ)ボタンを押します。

3

(RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンを押します。



- (RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンの赤ランプが点滅から点灯に変わり、データの削除が開始されます。
- 削除が終了すると、(RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンの赤ランプが消え、自動的にストップ状態に戻ります。

これで、ソングナンバー「9」のデータが削除できました。

こんなこともできる

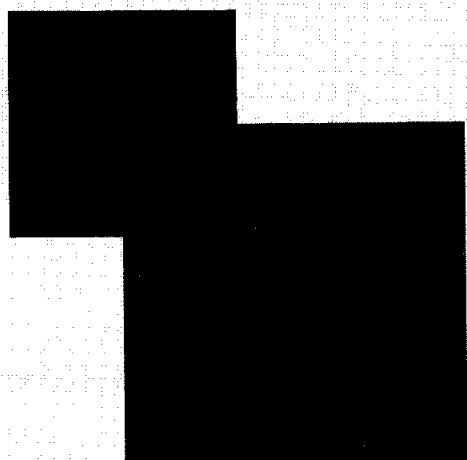
○(CONTROL/SONG DEL)(コントロール/ソングデリート)ボタンを押した後でも削除するソングナンバーを選び直すことができます。



- (RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンの赤ランプが点滅から点灯に変わり、データの削除が開始されます。
- このコピーが終了すると、表示される数字が「01」になり、自動的に「01」のソングナンバーにコピーされます。
- (CONTROL/SONG DEL)(コントロール/ソングデリート)ボタンを押した後でも削除するソングナンバーを選び直すことができます。

これで、録音したデータが別のソングナンバーにコピーされました。

- コピー元として指定したソングナンバーにデータが記録されていない場合は、データが記録されているソングナンバーが自動的に探し出され、表示されます。
- コピー元のソングナンバーすべてにデータが記録されている場合や、フロッピーディスクのメモリー容量が不足している場合は、データ不足ディスプレイ(D.F.U.L.)が表示されます。この場合ソングコピーはできません。(STOP)(ストップ)ボタンを押してから、不要なソングナンバーのデータを削除してください。(データを削除する方法はP.15をご覧ください。)



他の楽器と組み合わせる

音の高さを変える(ピッチ/トランスポーズ)

機能説明

ピッチとは音の高さのことです。音の高さを変える機能は、エレクトーンの音の高さを他の楽器に合わせるときに使います。

●音の高さを変えるための設定には次の種類があります。

設 定	説 明
トランスポーズ	+6~-6まで13段階に半音ずつ移調することができます。 0が音程の基です。+にすると上がり、-にすると下がります。
ピッチ	+15~-4(444.5Hz~438.8Hz)まで20段階に周波数を増減することができます。音の高さの変化幅は半音の4分の1程度です。

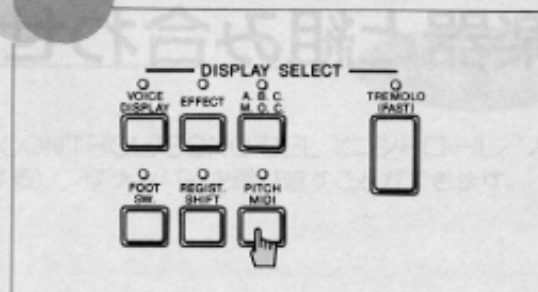
■トランスポーズ

操作方法

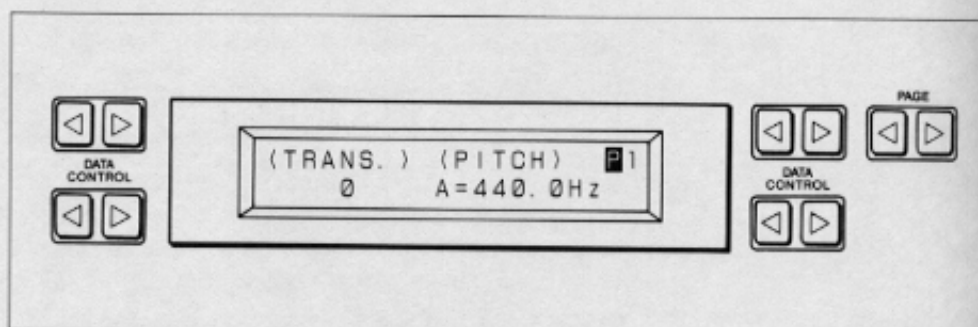
トランスポーズを+1にして音程を半音上げる操作を例にして説明します。

1

(PITCH/MIDI) (ピッチ/MIDI) ボタンを押します。



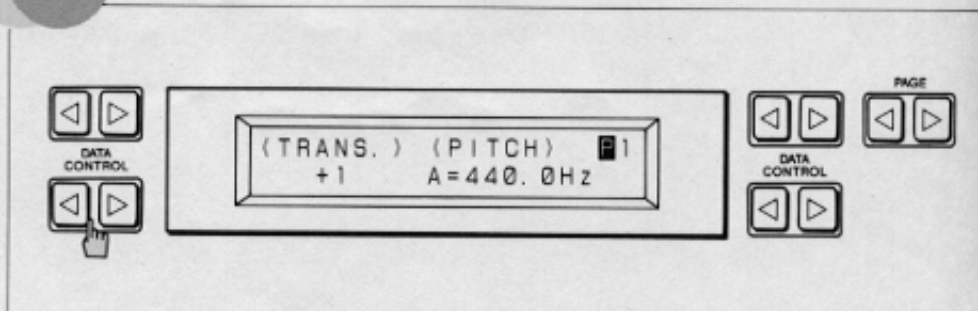
●(PITCH/MIDI) (ピッチ/MIDI) ボタンのランプが点灯します。



●トランスポーズの設定メニューが表示されます。

2

左側のデータコントロールボタン (◀)(▶) を押して、トランスポーズを「+1」に設定します。



●トランスポーズが「+1」となり、半音上がります。

これで、トランスポーズの設定ができました。

注意

トランスポーズは、レジストレーションメモリーには記憶されませんが、フロッピーディスクにはソング単位で記録することができます。

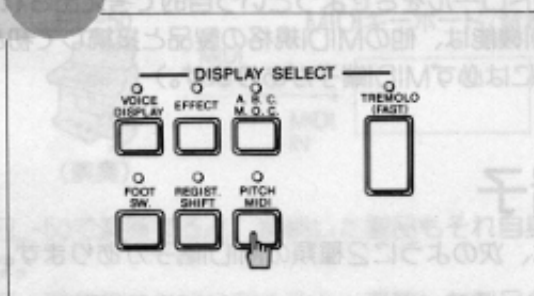
■ピッチ

操作方法

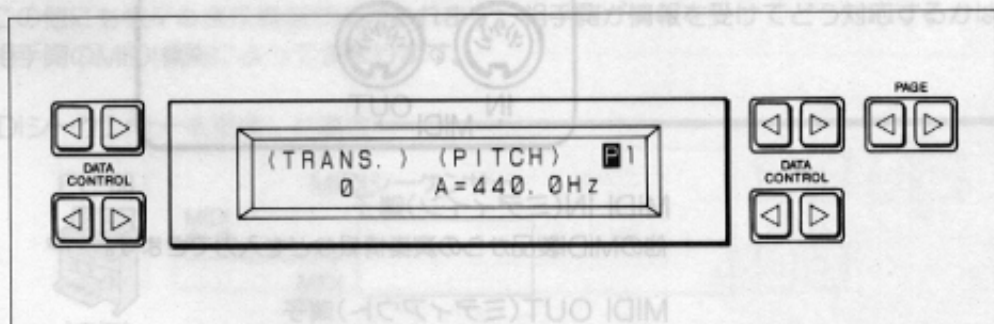
周波数を1段階上げる操作を例にして説明します。

1

〔PITCH/MIDI〕(ピッチ/MIDI)ボタンを押します。



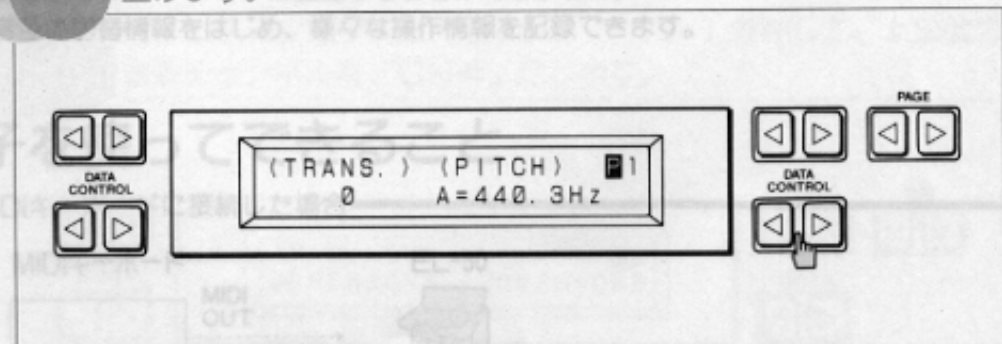
- 〔PITCH/MIDI〕(ピッチ/MIDI)ボタンのランプが点灯します。



- ピッチの設定メニューが表示されます。

2

右側のデータコントロールボタン〔<〕〔>〕を押して、ピッチを上げます。



- ピッチが1段階上がり、「440.3Hz」になります。

これで、ピッチが設定できました。

注意

- ピッチは、レジストレーションメモリーボタンやフロッピーディスクには記録されません。

- ピッチは、レジストレーションメモリーボタンやフロッピーディスクには記録されません。
- 外部のMIDIキーボードの演奏により、EL-50をリードボイスの音で鳴らすことができます。
- この他にも様々な機能を入力してEL-50をコントロール可能です。

MIDI端子について

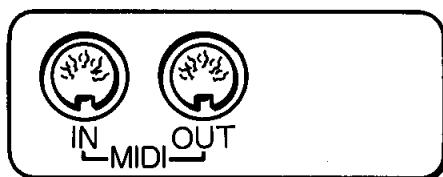
EL-50にはMIDI機能があり、MIDI機能を持った他の製品と組み合わせることにより、さらに様々な使い方ができるようになっています。

■MIDIとは？

MIDIという言葉はミュージカル・インストゥルメント・デジタル・インターフェイス (Musical Instrument Digital Interface)の頭文字をとったもので、“ミディ”と読みます。MIDIは、2台以上のMIDI製品を接続して、それらの間で、演奏にまつわる様々なコントロールをさせようという目的で考え出された世界統一規格です。つまりMIDI機能は、他のMIDI規格の製品と接続して初めて使い道があるわけです。(MIDI製品には必ずMIDI端子があります。)

■EL-50のMIDI端子

EL-50には、次のように2種類のMIDI端子があります。



MIDI IN(ミディイン)端子

他のMIDI製品からの演奏情報などを入力できます。

MIDI OUT(ミディアウト)端子

EL-50の演奏情報などが出力されます。

MIDI接続には、MIDIケーブルが必要です。

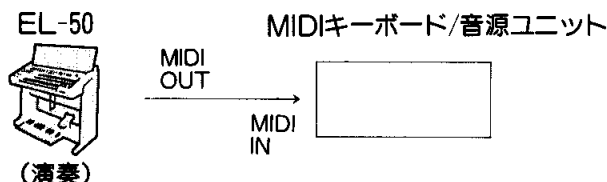
MIDIを使うと

「MIDI機能を使うとどんなことができるか?」、それは接続した製品との相性で決まります。簡単にいえば、両製品が共通して持っているMIDI機能に関して、やりとりできる可能性があります。

MIDI製品と一口にいても実に様々なものがありますので、ここでは代表的なものを選んで“できること”を紹介します。接続する製品の取扱説明書も合わせてご覧ください。

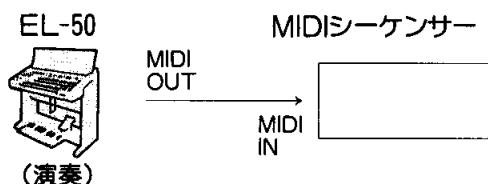
■MIDI OUT端子を使ってできること

MIDIキーボードまたは音源ユニットを接続した場合



- EL-50で演奏すると、接続した製品もそれ自身の音色で同時に鳴り、音に厚みがでます。
- EL-50で音色を切り替えると、接続した製品の音色も同時に切り替わります。
- この他にも様々な操作情報が出力されます。相手側が情報を受けてどう対応するかは、相手側のMIDI機能によって決まります。

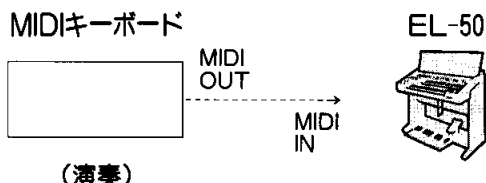
MIDIシーケンサーを接続した場合



- EL-50で演奏する内容を、MIDIシーケンサー（ディスクレコーダー）に記録できます。ただしEL-50内蔵のMDRを再生させた時はMIDI信号は送信されませんので、その内容をMIDIシーケンサーに記録することはできません。
- 音色の切替情報ははじめ、様々な操作情報を記録できます。

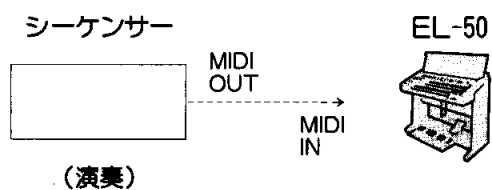
■MIDI IN端子を使ってできること

MIDIキーボードに接続した場合



- 外部のMIDIキーボードで演奏すると、EL-50もEL-50自身の音色で同時に鳴り、音に厚みがでます。
- 外部のMIDIキーボードで音色を切り替えると、EL-50の音色も同時に切り替わります。
- 外部のMIDIキーボードの演奏により、EL-50をキーボード/パーカッションの音で鳴らすことができます。
- 外部のMIDIキーボードの演奏により、EL-50をリードボイスの音で鳴らすことができます。
- この他にも様々な情報を入力してEL-50をコントロール可能です。

MIDIシーケンサーに接続した場合



- MIDIシーケンサー（ディスクレコーダー）に記録済みの演奏内容を、EL-50の音色で再生できます。

■MIDI送信チャンネルの設定

機能説明

上鍵盤と下録盤のMIDI送信チャンネルを、それぞれ変更することができます。

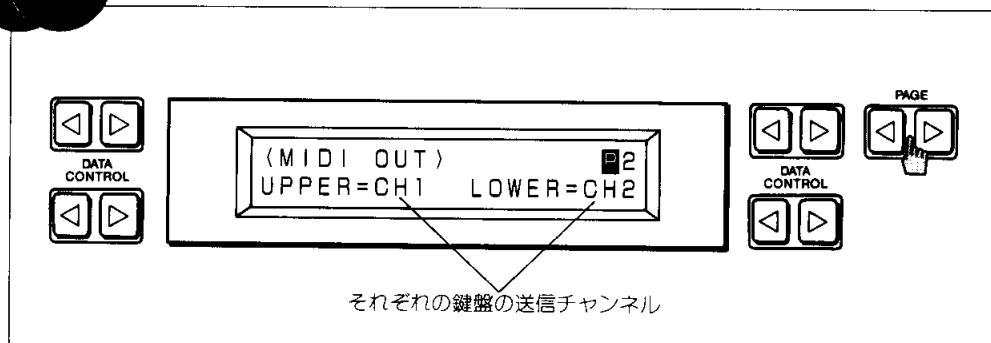
- 変更しなければ、上鍵盤の送信チャンネルは「CH1」、下鍵盤は「CH2」になっています。

操作方法

上鍵盤のMIDI送信チャンネルを「CH4」に変更する操作を例にして説明します。

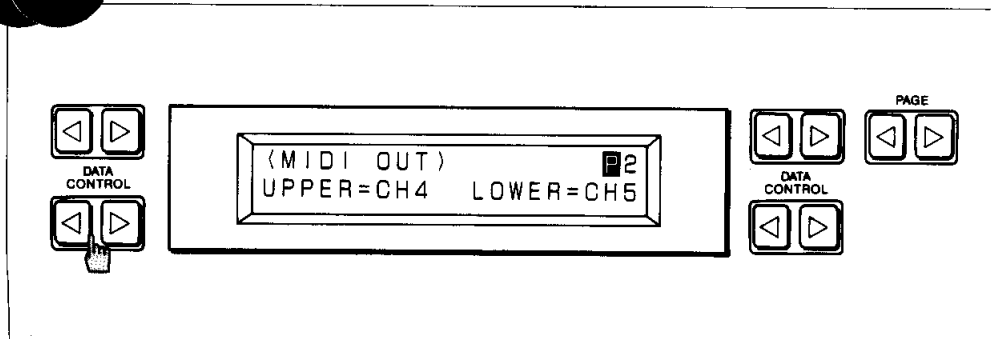
① (PITCH/MIDI) (ピッチ/MIDI) ボタンを押します。

② ページボタンの〔P〕を押して、2ページ目を表示させます。



- 2ページ目の「MIDI OUT」の表示になり、上鍵盤と下鍵盤のMIDI送信チャンネルが表示されます。

③ 左下のデータコントロールボタン〔←〕〔→〕を押して、上鍵盤の送信チャンネルを「CH4」にします。



- 変更したチャンネルで送信できるようになります。

これで、上鍵盤のMIDI送信チャンネルが「CH4」に変更できました。

- 下鍵盤のMIDI送信チャンネルを変更する場合や、元のチャンネルに戻す場合も、操作は同様です。

🎵 操作のポイント

- 送信先のMIDI製品のMIDI受信チャンネルと合わせてください。
- EL-50のMIDI OUT端子にMIDI製品を接続しない場合は、この操作は必要ありません。
- MIDI受信およびMIDI送信させていない状態で、設定してください。

注意

- ペダル鍵盤の送信チャンネルは、「CH3」固定です。
- エクスプレッションペダルの操作情報、レジストレーション切替えの操作情報は、「CH16」固定です。
- 電源を入れたときは、上鍵盤の送信チャンネルは「CH1」、下鍵盤は「CH2」に戻ります。
- MIDI送信チャンネルの設定をパネル設定の一部として、メモリーボタン〔1〕～〔8〕に記憶させることはできません。
- MIDI受信チャンネルは固定で、各チャンネルの情報に対してEL-50は次のように対応します。
CH1：アッパーキーボードボイス
CH2：ロワーキーボードボイス
CH3：ペダルボイス
CH4：リードボイス（LEADをEXT.にしたときのみ）
CH15：キーボードパーカッション
CH16：エクスプレッションペダル等のコントロール情報

■リードボイスの選択

機能説明

EL-50のリードボイスをどの鍵盤情報をもとに発音させるか選択できます。

- 「EXT.」(外部)にすると、リードボイスは他のMIDI製品をもとに発音します。
- 「INT.」(内部)に戻ると、EL-50の上鍵盤による演奏情報をもとに発音します。
- 変更しなければ、「INT.」になっています。

操作方法

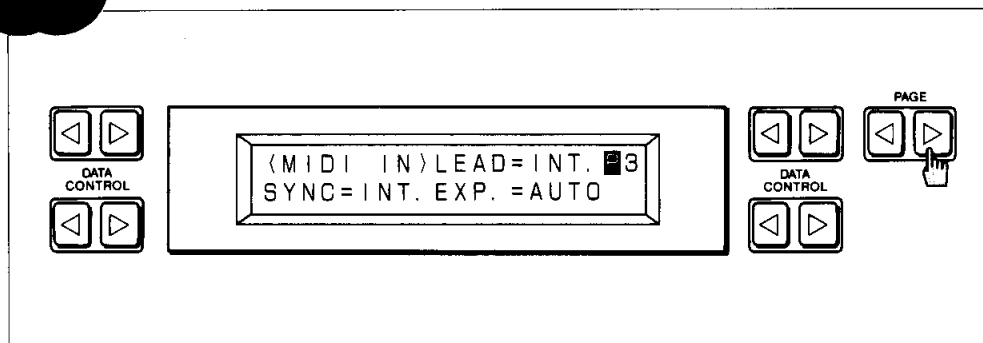
リードボイスの選択を、「EXT.」に変更する操作を例にして説明します。
元の「INT.」に戻す場合も、操作は同様です。



〔PITCH/MIDI〕(ピッチ／MIDI) ボタンを押します。



ページボタンの〔▶〕を押して3ページ目の「MIDI IN」を表示させます。

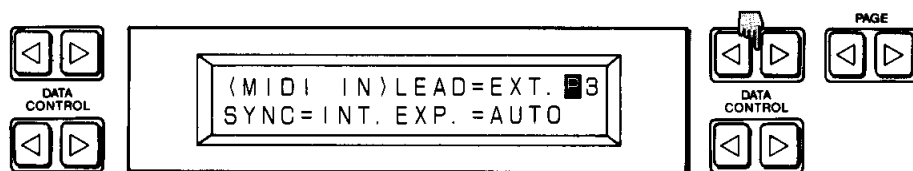


- 3ページ目の「MIDI IN」の表示になり、リードボイスの設定が表示されます。



右上のデータコントロールボタン（◀）（▶）を押して、リードの設定を「EXT.」にします。

例）リードの設定を「EXT.」にするなら、右上の（◀）（▶）ボタンを1回押す。



これで、リードボイスの設定が、「EXT.」になりました。



操作のポイント

- 「EXT.」にした場合は、MIDI IN端子に接続するMIDI製品のMIDI送信チャンネルを、CH 4にしてください。
- MIDI受信およびMIDI送信をさせていない状態で、設定してください。

注
意

- 「EXT.」にすると、MIDI IN端子に接続するMIDI製品でなければリードボイスの音を鳴らせなくなります。
- 電源を入れたときは、リードボイス用鍵盤の選択は「INT.」に戻ります。
- リードボイスの選択をパネル設定の一部として、メモリーボタン(1)～(8)に記憶させることはできません。

■エクスプレッションの選択

機能説明

エクスプレッションの情報を選択できます。

- 「EXT.」(外部)にすると、他のMIDI製品またはMDRのエクスプレッション情報により音量が決まります。
- 「INT.」(内部)にすると、EL-50のエクスプレッションペダル操作により音量が決まります。
- 「AUTO.」(オート)に戻すと、MDRをPLAYしている間は「EXT.」の状態になり、MDRをストップさせた後は「INT.」の状態になります。
- 変更しなければ、「AUTO」になっています。

操作方法

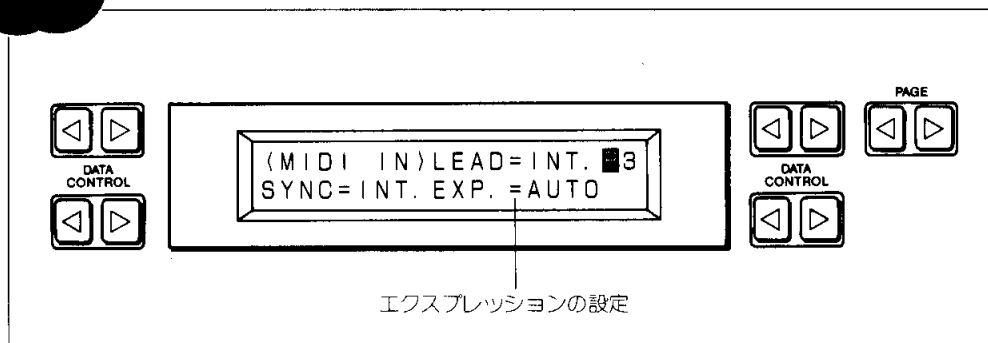
エクスプレッションの選択を、「EXT.」に変更する操作を例にして説明します。元の「AUTO」に戻す場合または「INT.」にする場合も、操作は同様です。



(PITCH/MIDI)(ピッチ/MIDI)ボタンを押します。



ページボタン (▷) を押して、3ページ目の「MIDI IN」を表示させます。

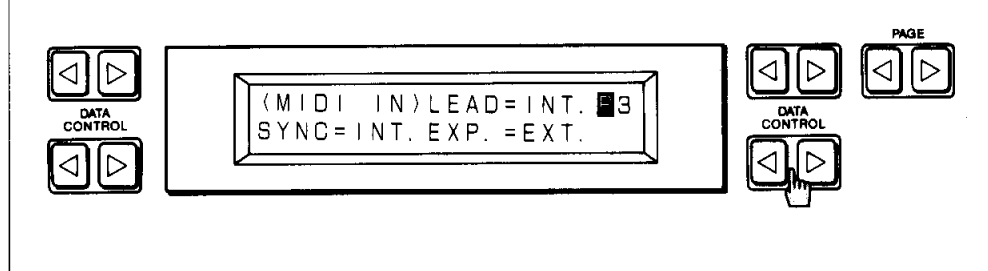


- エクスプレッションの設定が表示されます。



右下のデータコントロールボタン (◀)(▶) を押して、エクスプレッションの設定を「EXT.」にします。

例) エクスプレッションの設定を「EXT.」にするなら、右下の(◀)(▶)ボタンを1回または2回押す。



これで、エクスプレッションの設定が、「EXT.」になりました。



操作のポイント

- 「EXT.」にした場合は、MIDI IN端子に接続するMIDI製品のエクスプレッションの送信チャンネルを、CH16にしてください。
- MIDI受信およびMIDI送信をさせていない状態で、設定してください。

注
意

- 「EXT.」にすると、MIDI IN端子に接続するMIDI製品でなければ音量調節ができなくなります。
- 電源を入れたときは、エクスプレッションの選択は「AUTO」に戻ります。
- エクスプレッションの選択をパネル設定の一部として、メモリーボタン〔1〕～〔8〕に記憶させることはできません。

■同期クロックの選択

機能説明

EL-50のリズムを制御（同期）させるクロックを選択できます。

- 「EXT.」（外部クロック）にすると、他のMIDI製品のクロックで制御可能になります。
- 「INT.」（内部クロック）に戻すと、EL-50のテンポで動作します。
- 変更しなければ、「INT.」になっています。

操作方法

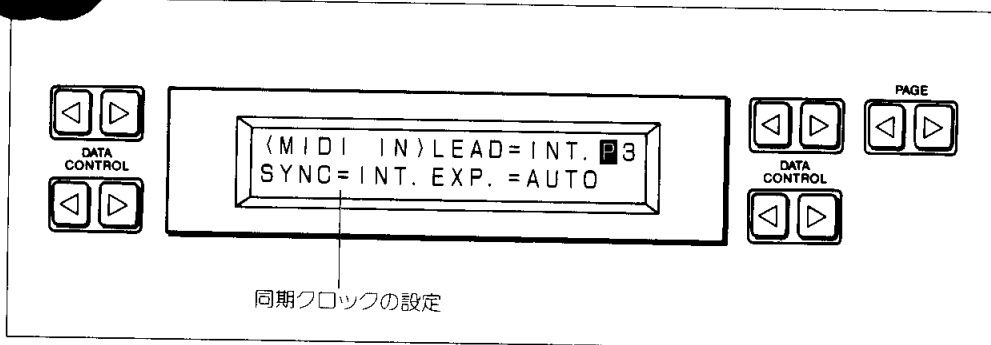
同期クロック（SYNC）を、「EXT.」に変更する操作を例にして説明します。
元の「INT.」に戻す場合も、操作は同様です。



〔PITCH/MIDI〕(ピッチ／MIDI)ボタンを押します。



ページボタン〔▶〕を押して、3ページ目の「MIDI IN」を表示させます。

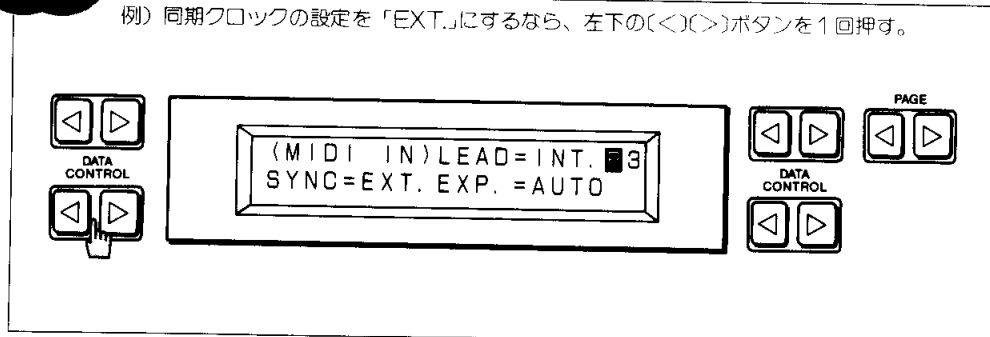


- 同期クロック（SYNC）の設定が表示されます。



左下のデータコントロールボタン〔◀〕〔▶〕を押して、同期クロック（SYNC）の設定を「EXT.」にします。

例）同期クロックの設定を「EXT.」にするなら、左下の〔◀〕〔▶〕ボタンを1回押す。



- 同期クロック（SYNC）の設定が表示されます。

これで、同期クロック（SYNC）の設定が、「EXT.」になりました。



操作のポイント

- 同期クロックを「EXT.」にした場合は、MIDI IN端子に接続するMIDI製品のクロックを、内部クロックにしてください。
- EL-50のリズムを制御させるクロックを変更しない場合は、この操作は必要ありません。
- MIDI受信およびMIDI送信をさせていない状態で、選択してください。

注意

- 「EXT.」にすると、MIDI IN端子に接続するMIDI製品でなければリズムを制御できなくなります。たとえば、EL-50の(START)(スタート)ボタンを押しても、リズムはスタートしません。
- 電源を入れたときは、同期クロックは「INT.」に戻ります。
- 同期クロックの選択をパネル設定の一部として、メモリーボタン(1)～(8)に記憶させることはできません。

MIDIメッセージ一覧

MIDIメッセージをご存知の方は、ご覧ください。EL-50のMIDI仕様を素早く調べたり、細かく知るうえで役立つことがあります。

- この項では、数値の表現方法として2進数と16進数の2通りが使われていますので、ご注意ください。
原則として、コードの欄に記載されている2桁の文字と、右側にHが付いた(たとえば40Hなど)文字は16進数です。

■チャンネルメッセージ

コード	メッセージ	送信	受信	備考
8n.nn(ノートNo).00~7F	ノートオフ	×	CH1 CH2 CH3 (CH4)*1 CH15	上鍵盤 下鍵盤 ペダル鍵盤 リードボイス キーボードパーカッション
9n.nn(ノートNo).00 01~7F	ノートオフ オン	CH1*2 CH2*3 CH3*4 ×	CH1 CH2 CH3 (CH4)*1 CH15	上鍵盤/アッパーキーボードボイス 下鍵盤/ローキーボードボイス ペダル鍵盤/ペダルボイス リードボイス キーボードパーカッション
Bn.04.00~7F	セカンドエクスプレッション	×	×	コントロール
BF.0B.00~7F	エクスプレッション	CH16	CH16	コントロール
Bn.40.00 7F	サステインオフ オン	×	×	上鍵盤/アッパーキーボードボイス 下鍵盤/ローキーボードボイス ペダル鍵盤/ペダルボイス
Bn.7B.00	オールノートオフ	×	×	上鍵盤/アッパーキーボードボイス 下鍵盤/ローキーボードボイス ペダル鍵盤/ペダルボイス リードボイス コントロール
Cn.nn(レジストNo)	プログラムチェンジ	×	CH1 CH2 CH3 CH16	上鍵盤/アッパーキーボードボイス 下鍵盤/ローキーボードボイス ペダル鍵盤/ペダルボイス コントロール
Dn.00~7F	アフタータッチ	CH1*2 CH2*3 ×	CH1 CH2 ×	上鍵盤/アッパーキーボードボイス 下鍵盤/ローキーボードボイス ペダル鍵盤/ペダルボイス
		×	(CH4)*1	リードボイス

※1:「LEAD」の設定を「EXT.」にした場合のみ受信可能です。

※2:「CH4」に変更可能です。

※3:「CH5」に変更可能です。

※4: ノートオン時のペロシティは、40Hで固定です。

■システムリアルタイムメッセージ

コード	メッセージ	送信	受信	備考
F8	タイミングクロック	○	○※1	
FA	スタート	○	○	
FC	ストップ	○	○	
FE	アクティブセンシング	○	○	
FF	システムリセット	×	×	

※1:「SYNC.」の設定を「EXT.」にした場合のみ受信可能です。

■システムエクスクルーシブメッセージ

1. エレクトーン共通メッセージ

バルクダンプデータ関係

コード	メッセージ	送信	受信
F0、43、70、70、00、……(データ)……、F7	バルクダンプデータ	×	○
F0、43、70、70、01、F7	音色パラメーターデータ送信要求	×	○
02	音色パラメーターデータ受信要求	×	○
F0、43、70、70、10、F7	全RAMデータ送信要求	×	○
11	全レジストレーションメモリーデータ送信要求	×	○
12	リズムシーケンスデータ送信要求	×	○
14	ユーザーパターンデータ送信要求	×	○
15	ユーザーパターンデータ送信要求	×	○
16	ユーザー音色データ送信要求	×	○
F0、43、70、70、20、F7	全RAMデータ受信要求	×	○
21	全レジストレーションメモリーデータ受信要求	×	○
22	リズムシーケンスデータ受信要求	×	○
24	ユーザーパターンデータ受信要求	×	○
25	ユーザーパターンデータ受信要求	×	○
26	ユーザー音色データ受信要求	×	○
F0、43、70、70、30、F7	モータルIDデータ送信要求	×	○
F0、43、70、70、38、7F、F7	バルクダンプアクノリッジ	○	×
00	アンアクノリッジ	○	×

コントロールチェンジ

コード	メッセージ	送信	受信
F0、43、70、70、40、45、7F、F7	左フットスイッチオン	○	○
00	オフ	○	○
F0、43、70、70、40、47、7F、F7	ニーレバーオン	○	○
00	オフ	○	○
F0、43、70、70、40、48、7F、F7	フィルインオン	○	○
00	オフ	○	○
F0、43、70、70、40、4B、7F、F7	イントロ/エンディングオン	○	○
00	オフ	○	○
F0、43、70、70、40、50、TL、TH、F7	テンポ	○	○

ミュージックディスクレコーダー(MDR)

コード	メッセージ	送信	受信
F0、43、70、70、70、01、F7	再生スタート	×	○
02	ストップ	×	○
03	録音スタート	×	○
04	ストップ	×	○
05	早送りスタート	×	○
06	ストップ	×	○
09	リズムポインターリセット	×	○

その他

コード	メッセージ	送信	受信
F0、43、70、70、78、SC、NC、F7	バーシグナル	○	○

2. ELシリーズ共通メッセージ

コード	メッセージ	送信	受信
F0、43、70、78、00、……(データ)……、F7	バルクダンブデータ	○	○
F0、43、70、78、01、F7	音色/パラメーターデータ送信要求	×	○
02	音色/パラメーターデータ受信要求	×	○
F0、43、70、78、10、F7	全RAMデータ送信要求	×	○
11	全レジストレーションメモリーデータ送信要求	×	○
12	リズムシーケンスデータ送信要求	×	○
14	ユーザーパターンデータ送信要求	×	○
15	ユーザーパターンデータ送信要求	×	○
16	ユーザー音色データ送信要求	×	○
F0、43、70、78、20、F7	全RAMデータ受信要求	×	○
21	全レジストレーションメモリーデータ受信要求	×	○
22	リズムシーケンスデータ受信要求	×	○
24	ユーザーパターンデータ受信要求	×	○
25	ユーザーパターンデータ受信要求	×	○
26	ユーザー音色データ受信要求	×	○
F0、43、70、78、41、……(データ)……、F7	パネル操作データ※1	○	○
F0、43、70、78、42、……(データ)……、F7	カレントパネルデータ	○	○

※1：P203の「パネル操作メッセージ一覧」を参照してください。

3. モデル固有メッセージ

コード	メッセージ	送信	受信
F0、43、70、3D、00、……(データ)……、F7	バルクダンブデータ	×	○
F0、43、70、3D、00、F7	モデルIDデータ	○	×
01	音色/パラメーターデータ送信要求	×	○
02	音色/パラメーターデータ受信要求	×	○
F0、43、70、3D、10、F7	全RAMデータ送信要求	×	○
11	全レジストレーションメモリーデータ送信要求	×	○
12	リズムシーケンスデータ送信要求	×	○
14	ユーザーパターンデータ送信要求	×	○
15	ユーザーパターンデータ送信要求	×	○
16	ユーザー音色データ送信要求	×	○
F0、43、70、3D、20、F7	全RAMデータ受信要求	×	○
21	全レジストレーションメモリーデータ受信要求	×	○
22	リズムシーケンスデータ受信要求	×	○
24	ユーザーパターンデータ受信要求	×	○
25	ユーザーパターンデータ受信要求	×	○
26	ユーザー音色データ受信要求	×	○

コードの欄の3Dは、EL-50のIDコードです。

4. エレクトーン/シングルキーボード共通メッセージ

コード	メッセージ	送信	受信
F0、43、73、01、02、F7	内部クロックモード要求	×	○
03	外部クロックモード要求	×	○

パネル操作メッセージ一覧

メッセージ構成：F0、43、70、78(ELシリーズ)、41(パネルスイッチイベント)、コード、データ、F7

機能(操作肢)		コード	データ範囲	備考
音色/リズム	アッパーキーボードボイス	02	00~0D	ボタン番号
	ロワーキーボードボイス	03	00~0D	//
	リードボイス	06	00~04	//
	ペダルボイス	07	00~04	//
	リズム	0B	00~0B	//
ポリューム	アッパーキーボードボイス	12	00~7F	ポリューム値
	ロワーキーボードボイス	13	00~7F	//
	リードボイス	16	00~7F	//
	ペダルボイス	17	00~7F	//
	リズム	1A	00~7F	//
	リバーブ	1B	00~7F	//
トゥロー	リード	36	00、01	00：オフ、01：オン
	ペダル	37	00、01	00：オフ、01：オン
サステイン	アッパー	50	00、01	00：オフ、01：オン
	ロワー	51	00、01	00：オフ、01：オン
	ペダル	52	00、01	00：オフ、01：オン
キーボードパーカッション	ロワー	5B	00、01	00：オフ、01：オン
	ペダル	5C	00、01	00：オフ、01：オン
ディセーブル	ディセーブル	5F	00、01	00：オフ、01：オン
トレモロ(ファースト)	トレモロ(ファースト)	60	00、01	00：コーラス、01：トレモロ※1
シーケンス	1	61	00、01	00：オフ、01：オン
	2	62	00、01	00：オフ、01：オン
	3	63	00、01	00：オフ、01：オン
	4	64	00、01	00：オフ、01：オン

※1：00のコーラスを受信しても、トレモロ(ファースト)がオフになります。

MIDIインプリメンテーションチャート

ファンクション...		送 信	受 信	備 考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	CH1、2、3、16 CH4、5	CH1、2、3、15、16 CH4	※1
モード	電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × *****	モード3 × ×	
ノート ナンバー	音域	36~96 ※2 *****	36~96 ※3	
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	○ 9nH、v=0~127 ×	○ 9nH、v=0~127 ○ 8nH	v=0(オフ) ※4
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ○	× ○	
ピッチ・ベンダー		×	×	
コントロール チェンジ	01	×	×	モジュレーションホイール セカンドエクスプレッションペダル エクスプレッション サスティンペダル ※5
	04	×	×	
	11	○	○	
	64	×	×	
プログラム チェンジ	設定可能範囲	○ 0~7、112~116 *****	○ 0~7、112~116 0~7、112~116	
エクスクループ		○	○	MIDIメッセージ一覧表参照
コモン	ソング・ポジション	×	×	
	ソング・セレクト	×	×	
	チューン	×	×	
リアル タイム	クロック コマンド	○ ○	○ ○	※5 (FAH、FCH)
その他	ローカルON/OFF	×	×	
	オール・ノート・オフ	×	×	
	アクティブ・センシング	○	○	
	リセット	×	×	
備考 ※1 CH1：上鍵盤/アツパーボイス、CH2：下鍵盤/ロワーボイス、CH3：ペダル鍵盤/ペダルボイス、CH4：リードボイス、CH15：キーボード/パーカッション、CH16：コントロール				
※2 CH1：48~96、CH2：36~84、CH3：36~55				
※3 CH15のみ36~127、他は36~96				
※4 ペダル鍵盤の送信時のノートオンベロシティは、40Hで固定。				
※5 外部同期モード時のみ受信。				

モード1：オムニ・オン、ポリ

モード2：オムニ・オン、モノ

○：あり

モード3：オムニ・オフ、ポリ

モード4：オムニ・オフ、モノ

×：なし

付 録

未永くお使いいただくために	206
EL-50の仕様	207
用語辞典	210
おかしいな?と思ったら	215
五十音索引	217
アフターサービスと保証	223
ヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点	224

末永くお使いいただくために

設置場所について

次のような場所には設置しないでください。

- 直射日光のあたる場所
- 暖房器具の近く
- 湿気やホコリの多い場所
- 温度の特に低い場所

取扱い上の注意

- エレクトーン本体や椅子などで電源コードを踏みつけたり、足に引っかけたりしないように注意してください。
- コンセントから抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。
- 電源コードの継ぎ足しは、危険ですからしないでください。
- ボタンやスイッチ類に無理な力を加えないでください。
- 椅子、譜面板などで本体にキズをつけないように、取扱いに注意してください。

他の楽器との接続について

- アンプなどの外部機器と接続する場合は、P12「付属端子について」を参照して、正しく接続してください。また、接続の際は、エレクトーンと外部機器の電源スイッチを切ってから行ってください。

他の電気機器への影響について

- このエレクトーンはデジタル回路を多用しているため、近くでラジオやテレビなどの電気機器などを同時に使用すると、雑音や誤動作などの原因になることがあります。他の電気機器から十分に離してご使用ください。

落雷に対する注意

- 落雷などの恐れがあるときは、早めに電源コードをコンセントから抜いてください。

外装・鍵盤のお手入れ

- 外装や鍵盤を清掃するときは、柔らかい布で乾拭きしてください。
- 汚れがひどい場合は、水でうすめた台所用の中性洗剤に浸した布をよく絞って拭いた後、乾いた布で乾拭きししてください。
- シンナーやベンジンなどの溶剤は鍵盤や外装をいためますので、絶対に使用しないでください。
- 外装の塗装は、ビニール製品と化学反応を起こすことがありますから、ビニール製品のカバーなどはご使用にならないでください。

万一異常があったら

- 使用中に音が出なくなったり、異常なおいや煙が出た場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜き、お求めの販売店もしくはサービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。

本書と保証書の保管について

- 本書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

EL-50の仕様

鍵盤	上鍵盤		49鍵	c〜c4(4オクターブ)
	下鍵盤		49鍵	C〜c3(4オクターブ)
	ペダル		20鍵	C〜g(1 1/2オクターブ)
タッチトーン			リードボイス、アッパークーボードボイス、ロワーキーボードボイス	
音色	アッパークーボードボイス ロワーキーボードボイス		ストリングス1、2 ピチカートストリングス クラリネット サキソフォン プラス シンセプラス コーラス オルガン ポップオルガン ジャズオルガン アコーディオン ピアノ エレクトリックピアノ ハープシコード ギター1、2 エレクトリックギター ハープ ビブラフォン グロッケン シンセチャイム マリンバ トウツティ1、2 コズミック1、2、3、4 ハーモニカ(アッパー専用) ホルン1、2(ロワー専用)	
	リードボイス		バイオリン フルート ホイッスル トランペット1、2 トロンボーン オーボエ バスーン	
	ペダルボイス		コントラバス ピチカートベース エレキベース1、2 シンセベース オルガンベース1、2 チューバ テンバニ	
	効果	リバーブ	パネル	コントロール
サステイン		パネル	アッパー(ニー)、ロワー(ニー)、ペダル	
		ディスプレイ	〈レングス〉アッパー、ロワー、ペダル	
トレモロ(ファースト)		トレモロスピード		
ビブラート			アッパークーボードボイス、ロワーキーボードボイス：プリセット/ユーザー(デプス) タッチビブラート：オン/オフ、リードボイス：プリセット/ユーザー ティレイ、デプス、 スピード)、タッチビブラート：オン/オフ	
	ティレイ/ フランジャー/ シンフォニック	コンディション	プリセット： 〈ティレイ・フランジャー〉オン/オフ(アッパー、ロワー、リード) 〈トレモロ・シンフォニック〉オン/オフ(アッパー、ロワー、リード、ペダル)	
		ティレイ：スピード、フィードバック、バランス フランジャー：スピード、フィードバック、デプス シンフォニック：シンフォニック、セレステ		
		フィート		アッパークーボードボイス、リードボイス、ロワーキーボードボイス、ペダルボイス： プリセット4/8/16
	グライド		アッパークーボードボイス、リードボイス、ロワーキーボードボイス	
	ポリリュームファイン		アッパークーボードボイス、リードボイス、ロワーキーボードボイス、ペダルボイス	
ベーシックレジストレーション			1、2、3、4、5	
レジストレーションメニュー			80/パターン(ディスク供給)	
リズム			マーチ ポルカ カントリー ブロードウェイ ワルツ1、2 ジャズワルツ ポレロ スイング1、2 ジャズバラード ティキシーランド バウンス1、2 レゲエ1、2 スローロック1、2、3 タンゴ1、2、3 チャチャ ルンバ ビギン マンボ サンバ1、2 ボサノバ1、2 8ビート1、2、3 ダンスポップ 16ビート1、2、3 16ビートファンク	

リズム	コントロール	パネル	スタート シンクロスタート イントロ/エンディング フィルイン ボリューム テンポ バー/ビート テンポディスプレイ テンポランプ
		ディスプレイ	オートバリエーション: オン/オフ ボリューム
プログラム	パターン		ビート: 4/4, 3/4, 2/4 フォンタイズ: 、、、、オフ メトロノーム: オン/オフ インストゥルメント(チェンジ、クリア、<、>) アクセント(0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8) (セーブ・トゥ・ユーザー・リズム): ユーザー1・2・3・4・5・6・7・8・A・B・C・D・フィルイン
	シーケンス		(パネル) シーケンス1・2・3・4 (ディスプレイ) ポジション: • SET • INS. • DEL. データ: プリセット • ユーザー • インサート • テリート • クリア
アカンパニメント			タイプ1・2・3・4 ボリューム
キーボードパーカッション			ロワー ペダル
オートベースコード			オートベースコード: オフ、シングルフィンガー、フィンガードコード、カスタムA・B・C メモリー: ロワー、ペダル
メロディーオンコード			モード: オン/オフ、1・2・3 ニー: オン/オフ
レジストレーションメモリー			メモリー、1、2、3、4、5、6、7、8、ティセーブル
レジストシフト			モード: オフ、シフト、ユーザー ユーザー: ポジション • SET • INS. • DEL. • CLEAR ユーザーシフトエディット: 18ステップ
フットスイッチ	フットスイッチレフト		モード: オフ、リズム、グライド リズムコントロール: ストップエンディング、フィルイン グライドコントロール: アッパー ロワー リード
	フットスイッチライト		レジストシフト
ニーコントロール			サステイン: アッパー、ロワー M.O.C.: オン/オフ
ピッチ			○
トランスポーズ			○
ミュージックディスクレコーダー			レコード: アッパー、ロワー、ペダル コントロール プレイ: アッパー、ロワー、 ペダル、コントロール ポーズ ストップ プレイ ソングセレクト レコード ソングリビート ソングコピー: フロム、トゥ ソングテリート シフト カスタムプレイ テンポ フォーマット
メインコントロール・その他			パワー マスターボリューム ニーレバー フットスイッチ ディスプレイ ディスプレイセレクト ページ データコントロール
ジャックの形式			ヘッドホン(ステレオフォーンジャック) リズムイン・L・R(フォーンジャック) AUXイン・L・R(ピンジャック) AUXアウト・L・R(ピンジャック) MIDIイン・アウト(MIDIコネクタ)

アンプ	55W×2
スピーカー	20cm×2(コーン型)、5cm×2(コーン型)、モニター×2
定格電圧・消費電力・周波数	100V、60W、50/60Hz
寸法/重量	本体 間口109.2cm、奥行52.0cm、高さ99.3cm、(譜面板を立てたとき120.5cm)重量79.0kg 椅子 間口66.5cm、奥行29.7cm、高さ58.0cm、重量7.5kg
付属品	フロッピーディスク(3.5インチ、2DD)、レジストレーションメニューディスク 和文シート

用語辞典

用語

解説

本文参照ページ

ア

アカンパニメント	伴奏のこと。エレフトーンではリズムの伴奏タイプのこと。EL-50には4種類のパターンがある。	46
アッパーキーボードボイス	上鍵盤で発音させることができる音色。	20

エ

エディット	編集すること。エレフトーンでは、リズムを変えたり、すでにメモリーしているレジストナバーの再生順序を変えたりすること。	108
エフェクト	効果のこと。エレフトーンではボイスコンティションのなかにある項目のひとつ。	31、56、79
A.B.C.	オートベースコードの略。	50
M.O.C.	メロディーオンコードの略。	54
MDR	ミュージックディスクレコーダーの略。	142

オ

オートバリエーション	リズムの4小節目と8小節目を自動的に変化させて、リズムにバリエーションを加える機能。	43
オートベースコード	下鍵盤とペダル鍵盤で押さえた音に加え、リズムに合わせたバリエーションで、ベース伴奏を自動的に付ける機能。	50

カ

カスタムA.B.C.	オートベースコードのモードのひとつ。下鍵盤で押さえたコードとペダル鍵盤で押さえた音が検出され、コードとベースの伴奏を自動的に付ける機能。	50
------------	--	----

キ

キーボードパーカッション	下鍵盤またはペダル鍵盤でさまざまな打楽器の音を付ける機能。	48
--------------	-------------------------------	----

シ

シングルフィンガー	オートベースコードのモードのひとつ。下鍵盤で根音を押さえるだけで、その音に合った和音と、リズムに合わせたバリエーションでベース伴奏を自動的に付ける機能。	50
-----------	--	----

用 語	解 説	本文参照ページ
シンフォニック	ボイスコンディションの中のエフェクトのメニューのひとつ。シンフォニックには、シンフォニックとセレステがある。シンフォニックは、複数の楽器で演奏しているような豊かな広がり感が得られる。セレステは、シンフォニックよりもかかりがゆるやか。	56
ソ		
ソングコピー	ミュージックディスクレコーダーの機能のひとつ。あるソングナンバーに記録したデータを他のソングナンバーにコピーする。	183
ソングセレクト	ミュージックディスクレコーダーの機能のひとつ。操作するソングナンバーを選ぶときに使う。	156
ソングデリート	ミュージックディスクレコーダーの機能のひとつ。ソングナンバーの削除をするときに使う。	185
ソングリピート	ミュージックディスクレコーダーの機能のひとつ。繰り返して再生させるときに使う。	177
タ		
タッチビブラート	アッパーキーボードボイス、ローキーボードボイス、リードボイスコンディションの機能のひとつ。鍵盤タッチでビブラートをコントロールできる。	32
タッチトーン	鍵盤を弾く強さによって、弾く音の音量や音色を変化させる機能。イニシャルタッチは、音の立ち上がりの音量・音色を変化させ、アフタータッチは、立ち上がった後の音量・音色をコントロールする。	24
テ		
ディセーブル	レジストナンバーの右端にある〔D〕ボタンのこと。レジストレーションのリズム関係の設定を保護する機能を持つ。レジストレーションの音色と効果だけを変更するときに使う。	63
ディレイ	音を遅らせること。エフェクトセットのメニューのひとつ。音がこだまするような感じにしたときに使う。	62
ト		
同時発音数	一度に鍵盤を押さえたときに発音する音数の最大値。	21
トゥッツィ	アッパーキーボードボイスとローキーボードボイスにあるボタンのひとつ。弦楽器や管楽器で編成されたオーケストラタイプの音色のこと。	20

用語	解説	本文参照ページ
トウーロワー	リードボイスとペダルボイスにあるボタンのひとつ。リードボイスまたはペダルボイスを下鍵盤で発音させることができる。	70
ドットボタン	アッパーキーボードボイス、ロワーキーボードボイス、リードボイス、ペダルボイスとリズムにあるボタンのひとつ。音色やリズムを登録することができる。音色の場合はフルートボイスを除くすべての音色からどれかひとつを登録できる。リズムの場合は、すべてのリズムの中からどれかひとつを登録できる。	71
トランスポーズ	エレクトーン全体のキーを+6~-6まで13段階に半音ずつ移調する機能。	188
トレモロ	ボイスコンディションの中のエフェクトのメニューのひとつ。音に回転感をもたせる効果。	56
トレモロ(ファースト)	トレモロとコーラスを設定するときやトレモロとコーラスを切り替えるときに使うボタン。	79
ハ		
パターン	「模範」「型」「傾向」という意味。EL-50のリズムプログラムのボタンのひとつ。リズムパターンやフィルインなどを新規作成またはエディットしたあと、ユーザーパターンとして登録するときに使う。	86
ヒ		
ビブラート	音をふるわせ、うるおいをもたせる効果。	32
フ		
フィート	音の高さを表す単位。8フィートを基音としていて、1オクターブ上が4フィート。逆に基音よりも1オクターブ下が16フィートになる。EL-50ではボイスコンディションのメニューの中で設定できる。	29
フィンガードコード	オートベースコードのモードのひとつ。下鍵盤で押さえたコードによって、リズムに合わせたバリエーションでベース伴奏を自動的に付ける機能。	50

用 語	解 説	本文参照ページ
フォーマット	ミュージックディスクレコーダーの機能のひとつ。新しいフロッピーディスクを使用できるようにするための操作。	149
フランジャー	音にうねりを持たせ、回転しているような感じにする効果。	56
ヘ		
ペダルボイス	ペダル鍵盤で発音できるベース音色。	21
ホ		
ボイスコンディション	音色の発音状態(コンディション)を設定する際に表示されるメニューの総称。音色ボタンを2回押すと表示される。	24
ボイスメニュー	音色ボタンを押したときにディスプレイに表示される音色のメニュー。	22
ボリューム	音量のこと。	23、 37
ボリュームファイン	ボイスコンディションのメニュー項目のひとつ。各音色群ごとに音量を25段階に調節できる。	24、 44
マ		
マスターボリューム	エレフトーン全体の音量を調節するつまみ。	5
ミ		
ミュージックディスクレコーダー	フロッピーディスクを使って、レジストレーションのデータを記録したり、演奏を録音・再生する機能。	142
MIDI	ミュージカル・インストゥルメント・デジタル・インターフェースの略。電子楽器などのデータ交信用に決められた世界統一の規格のこと。	190
メ		
メモリー	鍵盤から指を離しても、下鍵盤とペダル鍵盤の伴奏(オートベースコード)を持続させる機能。	52
メロディーオンコード	上鍵盤で弾くメロディーにハーモニーを自動的につける機能。	54

用 語	解 説	本文参照ページ
リ		
リズム	音楽を構成する基本要素のひとつ。EL-50では、リズムボタンを総称しており、リズムそのものだけでなく、そのリズムで演奏される伴奏を伴ったものをさしている。	36
リズムプログラム	リズムを自由にプログラムできる機能。シーケンスボタン、パターンボタンの総称でもある。	86
リトライ	演奏をフロッピーディスクに録音中、もう一度はじめから録音しなおすことができる機能。	159
リードボイス	上鍵盤で発音できるリード演奏用の音色。	21
リバーブ	音に残響感をつけ、ホールなどで演奏しているような響きにする効果。	57
レ		
レコード	ミュージックディスクレコーダーの機能のひとつ。演奏を録音するときやレジストレーションを記録するときに使う。	151、156
レジストレーションメモリー	パネル上でセットしたレジストレーションを記憶させ、いつでも再現できるようにしておく機能。	60
レジストレーション・メニュー・ディスク	いろいろなパターンのレジストレーションがメニュー形式となって記録されているフロッピーディスクのこと。	63
ロ		
ロワーキーボードボイス	下鍵盤で発音させることができる音色。	20

おかしいな?と思ったら

現象	原因と対処
時々「ガリッ」「ポツン」という雑音が入る。	近くで電気器具の電源をON/OFFしたり、故障したネオンサインや電気ドリルなどを使用している場合は、雑音が入ることがあります。原因と思われる機器から、なるべく離れたコンセントを使ってください。また、原因不明の場合は、電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ラジオやテレビ、無線などの電波が入る。	近くに大電力の放送局やアマチュア無線局があるためです。どうしても気になる場合は、サービスセンターまでご相談ください。→P224
ラジオやテレビなどに雑音が入ることがある。	エレクトーンのすぐ近くにラジオやテレビを置いてあると雑音が入ることがあります。なるべく離してご使用ください。
音が周囲のものを共鳴させる。	エレクトーンの音は持続音が多いため、周囲の戸棚や窓ガラスなどの器物を共鳴させることがあります。気になる場合は、器物を取り除くか、音量を小さくしてください。
選んだ音色によって、鍵盤位置による音量のバラつきがある。	一般の電子楽器は、音色を変えるという本質的な要素を持つため、音色による各鍵盤の音量のバラつきをなくすことは非常に困難です。エレクトーンは、どの音色でも演奏上問題のないように設計、調整されていますが、設置場所や聞く位置によって音量や音色が異なることがあります。どうしても気になる場合は、電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ペダル鍵盤ではピッチが高く、上・下鍵盤の高音部では低く感じられる。	特にピアノと比べた場合に感じますが、ピアノでは倍音構成が複雑なため、高音と低音の調律は実音での調律ができず、倍音を聞いて調律しています。エレクトーンの場合は逆に実音で調律していますから、ピアノとエレクトーンでは本質的に違うわけです。
割れるような感じや、ノイズが入るような感じの音色がある。	おもに管楽器の音色で感じるのですが、これは実際の楽器音の特徴を再現するため、特に組み込まれた音色効果です。ブラスの振動やブレスノイズなど、よりリアルな、特徴をそなえた音色が得られます。
ボリュームを最大にセットしても、音が小さい。	①マスターボリュームが最小になっていませんか。つまみを時計回りに回してください。 ②エクスプレッションペダルを踏み込むのを忘れていませんか。ペダルを踏み込んでください。
ボリュームをセットしても、ペダル鍵盤の音色が発音されない。	オートベースコードのシングルフィンガーまたはフィンガードコードがセットされていませんか。リズムコンティンションまたは(A.B.C./M.O.C.) ボタンのメニューのA.B.C.のモードをOFFにしてください。
上鍵盤と下鍵盤を同時に12音押さえても、11音しか発音されない。	アッパーキーボードボイスとローキーボードボイスは合わせて最大11音まで同時に発音されるようになっています。→P21
ペダル鍵盤またはリードボイスを同時に2音押さえても、1音しか発音されない。	ペダル鍵盤またはリードボイスでは、それぞれ同時に1音しか発音されないようになっています。同時に2音以上押さえた場合は、高音が優先されます。→P21

現 象	原因と対処
レジストレーションに記憶されない機能がある。	次の機能は記憶されないようになっています。 リズムのスタート、シンクロスタート、フィルイン、イントロ/エンディングの各スイッチなどの機能。 ユーザーボイス、ユーザーリズム、レジストシフト、MDRセレクトボタンなど。
ディスクに記録しようとしたら、エラーランプが点灯して、データが移らない。	①操作が間違っていないですか。操作方法を確認してください。 ②フロッピーディスクのプロテクトスイッチがONになっていませんか。操作を中断して、フロッピーディスクを取り出して、OFFにしてください。
メロディーオンコードによるハーモニーの音が発音されない。	上鍵盤でリードボイスだけが発音されるようになっていませんか。アッパーキーボードボイスをセットしてください。→P23
下鍵盤またはペダル鍵盤を押さえると、リズム楽器の音が一緒に発音される。	キーボードパーカッションがONになっていませんか。キーボードパーカッションを使用しないときはOFFにしてください。(リズムエディット中は同時に発音されます。)→P48
オートベースコード(A.B.C.)のシングルフィンガーで下鍵盤の高い音を押さえても、音程が変わらない。	シングルフィンガーでは定められた1オクターブのなかの音が出るようになっています。同じコード同じ音色であれば、下鍵盤のどの位置を押さえても同じ音程で和音が出ます。
コントロールパネル等が正常に働かない。または、メモリーしていた情報が変わってしまう。	非常にまれなことですが、落雷などにより異常電圧が流れ、エレクトーンが正常に機能しなくなったり、メモリーしていた情報が変わったりすることがあります。このような場合は、いったん電源スイッチを切り、データコントロールボタンの左端上の〔<〕を押しながら、電源スイッチをもう一度ONにしてください。(このときすべてのメモリー情報は失われます。)それでも正常に働かない場合は、サービスセンターまでご相談ください。 →P224

五十音索引

あ

アカンパニメント	46
アッパーキーボードボイス	20
アフタータッチ	24

い

イニシャルタッチ	24
イントロ/エンディング	40、41

え

8ビート	36
エクспRESSIONペダル	5
エディット	106
A.B.C.	50
エフェクト	30、56、79
M.O.C.	54
MDR	142
MDRの基本的な操作手順	145
MDRのできること	144
M./TO DISK	60
エレクトリックベース	21
演奏だけを再生	174
演奏までの操作順序	5
演奏を録音する	156

お

オートバリエーション	43
オートベースコード	50
オーボエ	21
オルガン	20
オルガンベース	21
音色機能	22
音色選択	22
音色の発音状態を決める	24

か

カスタムA.B.C.	50
カスタム再生	174
カスタムプレイ(MDR関係)	174

き

ギター	20
キーボードパーカッション	48
基本操作の流れ	18
基本レジストレーション	19
曲をコピーする	183
曲を削除する	185

く

グライドモード(フットスイッチ関係)	137
クラリネット	20
繰り返し再生	177

け

鍵盤ごとに録音する	160
鍵盤と音色群との関係	20

こ

効果について	56
コズミック	20
コーラス(音色名)	20
コントラバス	21
コントロール(MDR関係)	142

さ

再生時のテンポ変更	181
再生の一時停止	172
再生の早送り、早戻し	173
再生を途中で止める	172
サキソフォン	20
サステイン	58

し

シーケンス	113
自動伴奏	50
シフト	128
シフト(MDR関係)	143
16ビート	36
シングルフィンガー	50
シンクロスタート	39
シンフォニック	56

す

スイング	36
スタート	39
ストップ	39
ストリングス	20
スローロック	36

せ

セレステ	80
------	----

そ

操作パネルについて	10
操作パネル早見表	3
ソングコピー	183
ソングセレクト	156
ソングデリート	185
ソングリピート	177

た

タッチトーン	24
タッチビブラート	33
タンゴ	36

ち

チューバ	21
------	----

て

ディスプレイ	13
ディスプレイについて	14
ティセーブル	62
ティレイ	56、80
ティレイスピード	80
テータコントロールボタン	15
電源コード	3
電源プラグ	5
テンポ	41

と

同時発音数	21
トウツティ	20
トウーロワー	70
ドットボタン	71

トランスポーズ	188
トランペット	21
トレモロ	56
トレモロ(ファースト)	79

に

ニー	55
ニーレバー	59

は

バイオリン	21
バウンス	36
パターン	86
ハーモニカ	20
パワー	5
パワーオン・リセット	139

ひ

ピアノ	20
弾いてみましょう	4
ピッチ	189
ピッチを変える	189
ビブラート	32
ビブラートスピード	34
ビブラートタイレイ	34
ビブラートテプス	34
ビブラフォン	20

ふ

フィート	28
フィードバック	80
フィルイン	40
フィンガードコード	50
フォーマット(MDR関係)	149
付属端子について	12
フットスイッチ	127
フットスイッチでコントロールできること	127
プラス	20
フランジャー	82
フランジャースピード	83
フルート	21
プレイ(MDR関係)	143
フロッピーディスクに録音する	151
フロッピーディスクのメモリー残量の確認	168
フロッピーディスクを再生する	171
フロッピーディスクをフォーマット(初期化)する	149

へ

ページ	13
ベータシフトレジストレーション	19
ペダルボイス	21

ほ

ボイスコンディショニング	24
ボイスディスプレイ	35
ボイスメニュー	20
ボサノバ	36
ポーズ(MDR関係)	172
ポリューム	26
ポリュームファイン	26
ホルン	20
本書の見方	2

ま

マスターポリューム	5
マーチ	36

み

MIDI	190
MIDIコード一覧	204
MIDI対応機器との接続例	191
MIDI端子	190
ミュージックディスクレコーダー	142
ミュージックディスクレコーダーについて	142

め

メモリー(A,B,C関係)	50
メモリー機能	52
メモティーオンコード	54

も

モニタースピーカー	3
-----------	---

ゆ

ユーザー(レジストシフト関係)	128
ユーザー(リズムプログラム関係)	86
ユーザー(音色関係)	72

ら

ラテン	36
-----	----

り

リズムを選ぶ	36
リズムコンディション	43
リズム／伴奏機能	50
リズムプログラム	86
リズムボリューム	37
リズムメニュー	36
リズムモード(フットスイッチ関係)	135
リトライ	159
リードボイス	21
リバーブ	57

れ

レコード(MDR関係)	143
レジストシフト	128
レジストレーションデータをフロッピーディスクに記録する	151
レジストレーション・メニューディスク	66

ろ

録音時のテンポに戻す	182
録音をやり直す	159
ローキーボードボイス	20

わ

ワルツ	36
-----	----

アフターサービスと保証

保証

保証期間は、保証書の裏面の記載により、ご購入から満1カ年です。ただし、現金、ローン、月賦などによる区別は、一切いたしません。また、保証は日本国内でのみ有効といたします。

保証書

エレクトーン納入の際、保証書をお渡しいたしますので大切に保管くださるようお願いいたします。また、納入調整サービスの際には、納入調整者が保証書内に必要事項を記入うえ、発行いたしますので記載事項をご確認ください。

保証書は、弊社がご購入いただいたお客さまに、ご購入の日から1カ年間の無償サービスをお約束申し上げるものですが、万一紛失なさいますと、保証期間中であつても実費を頂戴させていただくことになります。万一の場合に備えて、いつでもご提示いただけますように、充分ご配慮のうえで保管してください。また、保証期間が切れましても、お捨てにならないでください。後々のサービスに際しての機種判別や、サービス依頼店の確認など、便利にご利用いただけます。

保証期間中のサービス

1. 保証期間中に万一故障が発生した場合には、ヤマハ特約楽器店、小売り楽器店にご連絡いただきますと、販売店またはヤマハのエレクトーン技術者が直ちに調整・修理にお伺いします。
2. 保証書は、サービスにお伺いした際に今後の製品改良の貴重な資料とするため、技術者がお預かりさせていただきます。お預かりした保証書は、弊社サービスセンター、サービスステーションに送られ、記録した後、直接お客さまにご返送申し上げます。この間、約1週間～10日間程度を要しますが、ご心配なくお待ちください。
3. 遠方に移転される場合は、事前にお買い上げ楽器店あるいは弊社サービスセンター、サービスステーションにご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますとともに、引き続き保証期間中のサービスを責任もって行うよう手続きいたします。

保証期間以後のサービス

満1カ年の保証期間が切れますと、サービスは有料となりますが、引き続き責任をもってサービスをさせていただきます。なお、補修用性能部品(製品本来の機能を維持するために必要な部品)の最低保有期間は、8年となっております。保証期間以後の移転の場合も、保証期間中と同様にご連絡いただきましたら、移転後のサービス担当店をご紹介します。

サービスのご依頼

●ご依頼の前に

1. コンセントに電気が来ているかどうか、他の電気製品を接続してお確かめください。
2. 電話でのご依頼の際、再度、故障かどうか確認させていただく場合がありますので、ぜひご協力をお願いいたします。

●これだけはお知らせください

- ご住所
- お名前
- ご連絡先電話番号
- ご購入店
- お買い上げ年月日
- 機種名(モデル名)
- 症状

●エレクトーンの様子を詳しくお知らせください。

1. できれば実際にエレクトーンをお弾きになっいらっしゃる方が様子をお聞かせくだされば、あらかじめ用意する部品など見当が付き、サービスがスムーズにいきます。
2. ととき調子がおかしくなるような場合は、お手数でもその状態をできるだけ詳しくお知らせください。たとえば、次のような場合です。
 - 夜間だけ音が小さい
 - ある時間だけ演奏中に雑音が入る
 - エレクトーンの音を出さなくてもスイッチを入れるだけで雑音が入る
3. エレクトーンの種類など、サービス依頼のエレクトーンに関する詳細は、保証書をご覧になってお知らせください。使用部品が製造時期やモデルによって異なることもあります。早く確実にサービスさせていただくために、ぜひお願いいたします。

サービスのお約束について

1. お客さまの関係で、昼間ご不在のお客さまや、留守がちのお客さまは、できるだけお伺いする日時をお約束させていただきます。
2. 万一お約束した日時のご都合が悪くなった場合にはできるだけ早くサービスを依頼されたお店にご連絡ください。
3. お店にサービスをご依頼なされたにもかかわらず、日時が経過してもサービス員がお伺いしない場合には、お手数でも次ページのサービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。責任をもって処理させていただきます。

ヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点

修理受付および修理品お預かり窓口

北海道サービスセンター 〒064 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター
TEL.011-513-5036

仙台サービスセンター 〒983 仙台市若林区卸町5-7
仙台卸商共同配送センター3F
TEL.022-236-0249

新潟サービスセンター 〒950 新潟市万代1-4-8シルバーボールビル2F
TEL.025-243-4321

首都圏サービスセンター 〒211 川崎市中原区木月1184
TEL.044-434-3100

浜松サービスセンター 〒435 浜松市上西町911
ヤマハ㈱宮竹工場内
TEL.053-465-6711

名古屋サービスセンター 〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ㈱名古屋流通センター3F
TEL.052-652-2230

大阪サービスセンター 〒565 吹田市新芦屋下1-16
ヤマハ㈱千里丘センター内
TEL.06-877-5262

四国サービスセンター 〒760 高松市丸亀町8-7
ヤマハ㈱高松店内
TEL.0878-22-3045

広島サービスセンター 〒731-01 広島市安佐南区西原6-14-14
TEL.082-874-3787

九州サービスセンター 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL.092-472-2134

(本社)カスタマーサービス部 〒435 浜松市上西町911
ヤマハ㈱宮竹工場内
TEL.053-465-1158

ヤマハ株式会社

北海道支店／〒064 札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター
営業推進課 TEL.011(512)1550

仙台支店／〒980 仙台市青葉区大町2-2-10 住友生命青葉通りビル
営業推進課 TEL.022(222)6149

東京支店／〒108 東京都港区高輪2-17-11
鍵盤推進課 TEL.03(5488)5442

関東支店／〒108 東京都港区高輪2-17-11
営業推進課 TEL.03(5488)1680

名古屋支店／〒460 名古屋市中区錦1-18-28
鍵盤推進課 TEL.052(201)5140

大阪支店／〒542 大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館
鍵盤推進課 TEL.06-252-7541

広島支店／〒730 広島市中区紙屋町1-1-18
営業推進課 TEL.082(244)3748

九州支店／〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
鍵盤推進課 TEL.092(472)2152

鍵盤営業本部／〒430 浜松市中沢町10-1
電子楽器営業部 TEL.053(460)2191
エレクトーン営業課

* 住所および電話番号は変更になる場合があります。

エレクトーン®は当社の登録商標です。

YAMAHA
YAMAHA CORPORATION